

輝け！シン尾花沢中

第195号

令和8年

3月3日

ゆくてののぞみ 語りつつ 自律をめざす わが学園

「ありがとう」が何よりの喜び～尾花沢雪まつりボランティア②～

今号も、第50回尾花沢雪まつりに、ボランティアとして参加した尾中生の感想を紹介します。



佐藤 心音さん（2年）：雪まつりという地元のイベントに、市内外から人々が来ていて、とてもやりがいを感じました。気をつけたことは、チューブの譲り合い精神を大切にしました。これからもいろいろな形で地元のイベントに関わりながら生活していきたいです。

黒山 亜咲さん（2年）：初めてボランティアに参加してすごく楽しかったです。晴天で日差しが強くて大変だったけれど、それ以上にたくさんの人とかわることができてうれしかったです。次のボランティア活動にも参加したいと思いました。

菅原 求馬さん（2年）：お客様に教えてあげたときに「ありがとう」と言ってもらえたことがうれしかったです。写真撮影の仕事をして、最初はどのように撮ればよいか分からなかったけれど、だんだん楽しくなりました。次に参加するときは、困っている人に率先して教えたいと思いました。



菅野 未羽さん（2年）：小さい子が好きなのでたくさんかわることができてうれしかったです。事故が起こらないように周りを見て行動することを学びました。また、自分の役割に責任をもってたくさんの人とかわることができました。これからは、いろいろな人とのかわりについて学んだことを生かして生活していきたいです。

渡辺 叶愛さん（3年）：ボランティアに参加して、尾花沢に貢献できてよかったです。うれしかったことは「ありがとう」と言ってもらえたことです。私たちボランティアのほかにも、雪合戦に参加している尾中生がいました。他のところどころで、尾中生が雪まつりを盛り上げる活動に参加していてよかったです。今日の経験を日頃の生活にも生かして、地域に貢献できるようにもっと頑張りたいです。

鈴木麻理亜さん（3年）：ボランティア後に「やりきったぞ！」という達成感がありました。状況を見てボランティア同士で連携して動くことが大変でした。また、初対面の方と話すことがなかなか慣れませんでした。これからも、この経験を生かし、周りを見て行動できる人になっていきたいです。

梶川 翔汰さん（3年）：当日、お客様の楽しそうな顔を見ることができて楽しかったです。今回学んだ、お客様との接し方やスタッフ同士の協力の仕方を、勉強や仕事に生かしていきたいです。

齊藤 優菜さん（3年）：参加している人たちの楽しそうな声や笑顔を見て、こっちまで楽しんで取り組むことができました。自分も相手も気持ちよく過ごせる場所を創りたいと思いました。

「ありがとう」で苦勞が報われるのですね。尾花沢雪まつりを盛り上げてくれた尾中生の皆さん、お疲れさまでした。

【文責：校長 工藤雅史】